

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1870101175	
法人名	公益財団法人 松原病院	
事業所名	グループホームぬくもり	
所在地	〒910-0017 福井県福井市文京2丁目6-10	
自己評価作成日	平成 29 年 8 月 16 日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号
訪問調査日	平成29年9月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、利用者様の思いや希望などを大切にし、利用者本位の個別ケアを実施しています。職員は日々の利用者様の変化や気づきなどその場で声に出し、職員間で話し合いの場を持ちケアにつなげていけるように心がけています。また、インシデント報告書や気づきシートを活用することで安全な生活が送れるように常に話し合っています。また、地域との繋がりがとして、傾聴、民謡ボランティアの方々が定期的に来てくださり交流しています。市の防災訓練の参加や、春山小学校でのふれあい祭りなどにも積極的に参加しています。近隣の理髪店や美容室も同行して馴染の関係を保てるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念「利用者様のために、ご家族のために、地域のために、私たちは責務を誠実に果たし信頼できるグループホームを目指します。認知症ケアは、チームケア。抱え込むのではなく、みんな一つになって、利用者様の人格を尊重し、その人らしさを支えていきます。」を全職員が共有し、理念に基づく個人実践目標を毎年設定し、適切なサービス提供に向けて取り組んでいる。また、運営推進会議において地域代表者と情報交換し、行事、防災連携等を通して地域との交流を活発に行っている。事業所は法人の鉄骨造り建物3階に併設され、完全バリアフリーで明るく家庭的で落ち着いた空間である。また学校、図書館、美術館、公園等が点在する住宅街の一角にある。幹線道路が走り公共交通機関利用も便利である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基に、地域密着型事業所としての独自の理念がある。また、年度毎に設けられた老人福祉部のテーマ・目標に沿ったぬくもりの目標があり、職員もぬくもりの目標に沿って個人目標をたて、実践している。	管理者は理念の意義を理解し、職員に周知徹底している。職員は年度初めに個人実践目標を設定し年度末に達成度を評価している。常日頃から支援の在り方を検討し理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の自治会に加入し、運営推進会議や新年会、地域の祭りでのイベントに参加したり、避難訓練や防災訓練などにも積極的に参加し利用者が地域の方と交流できる機会を作ることに努めている。	町内自治会に加入し行事に積極的に参加するとともに、事業所でのボランティアによる演奏会等地域との交流が盛んである。防災面でも地域住民の訓練への参加立ち合い等協力体制ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場に於いてグループホームでの活動や現状を報告し、意見や感想を受け、認知症の方々の理解や支援について役立てよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者の現状や問題点なども報告し、地域の方からの意見やアドバイス・情報をいただき、日々のサービスにつなげられるように努力している。	町内自治会、民生委員等地域代表、地域包括支援センター、家族代表等の参加により事業所の活動状況を説明し、地域情報等意見交換の場として活かしている。会議結果は詳細に記録し運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点などがある場合には市の介護福祉課や地域包括支援センターに相談し、助言をもらっている。	必要に応じて市職員に積極的に情報照会する体制をとっている。日頃は地域包括支援センターと地域情報等を共有し、連携を図るとともに、運営推進会議において意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「緊急やむを得ない」三要件を理解し、拘束しないケアに取り組んでいる。玄関の施錠を行う場合は記録簿に、理由・施錠者・時間・解除者を必ず記録している。また、職員全員が拘束について意識するように心がけている。	行動制限がなく、心身ともに開放的で安らぎの支援がなされている。特に利用者に与える影響が大きい職員の言葉づかいについて、特別研修を実施している。また、身体拘束をしない支援について管理者を中心に職員間で話し合い、意識を共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は法人の新人研修や教育員会の研修にて必ず高齢者虐待防止関連法にて学んでいる。また、職員個人が日頃のケアの中で虐待とみなされる行為等ないかのチェックシートを行い振り返っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は成年後見制度について学ぶ機会がなく、今後学ぶ機会がもてるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には契約書・重要事項説明書等、読み上げ、説明をしている。理解・納得していただけたら署名・押印してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との日々の関わりの中で職員は小さな気づきや発言に耳を傾け利用者の意見をくみ取るように努めている。また、ご家族の面会時や運営推進会議などでは、意見や要望などをいただくことが出来ている。	家族面会時に意見要望を聞き取り、リーダー職員が面会情報を記録し職員間で共有している。運営推進会議には家族が参加して意見要望を出してもらい、必要な事項は話し合い運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングを定期的に行い、意見等を聞き運営やケアに反映させている。又、面会時にご家族と積極的に話す機会を持つよう努力している。	管理者は日常的に職員との対話を心掛け、意見要望等を聞き、その都度話し合いながら対応している。その際、年度毎に職員が設定している事業所理念の個人実践目標も参考にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	直属の上司が、管理者や職員と積極的に話す機会を設け、安心ややりがいを持って働くことが出来るように、環境や雇用条件の改善に努めてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	直属の上司が、管理者や職員の実力や力量を把握し、法人外の研修を勧めてくれている。職員は管理者と相談しながら法人外の研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、他グループホームとの意見交換会や勉強会、又、実践者研修の受け入れも行き、常にサービスの向上について話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ず本人と面談し、アセスメント、ご家族からの聞き取りを行っている。入所されてからは、細かに記録をして職員全体で情報を共有し、本人の思いに耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にセンター方式シートへの情報の書き込みに協力していただき、その悩みや要望をくみ取れるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時には、家族や利用者と話しをしながら、ぬくもりの暮らしでの希望や思いを確認できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と活動を共にしながら、その時その時の時間の共有を大切にし、人生の先輩として経験や知恵を教えてもらい、暮らしを共にする者同士の関係が築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係が保たれるように、外出時は家族に声をかけ一緒に外出したり、面会時には積極的にコミュニケーションを図り、家族からの情報を得たりしながら共に本人を支えられるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に利用していた自宅近くの床屋や美容室を利用したり、自宅や馴染の場所へ行くことで、馴染の方との交流が出来るよう支援している。	以前働いていた職場訪問や買い物、美容室、通院、外食等に出かける等、利用者の住み慣れた地域への感覚が途切れないよう、実際に見て感じる支援をしている。入居後も今までの生活、馴染みに配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの、会話能力や趣味や好みなどを考慮し活動を提供することで関わりがもてている。座席もその都度状況に応じて変更している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了し病院や特養に移られた方は家族からの現状報告や本人が落ち着くまで、家族の相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人の言動や言葉などから職員が思いや希望をくみ取れるように、小さなことでも記録に残すように努めている。朝の申し送りの際には本人の思いや必要としていることについて話し合っている。	利用者一人ひとりの言葉や表情、態度に注目し、職員間で情報共有している。特に言葉づかいは、そのまま直接表現で記録し、職員間で利用者の思いを把握しようとしている。把握が困難な場合は本人の立場から判断するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人とのコミュニケーションや家族からの情報などから積極的に出来る限りの情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録や職員の気づきを基に、日々職員間での話し合いをし現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常日頃家族とのコミュニケーションを積極的に行い、家族や本人、職員間でカンファレンスを実施しケアプラン作成につなげている。	定期的に担当職員のモニタリング結果を基に、管理者・計画作成担当者・担当職員が家族等の意見を参考に協議し、計画の見直しをしている。病状等状態の急変した時は随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実施状況や気づきを個別記録に記入し、職員間でその情報の共有をしながらケアにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の同行が困難な利用者の受診や理髪店、歯科受診などへの同行を援助している。お盆やお彼岸にはお墓参りが出来ない方々のために、ボランティアによる法要を執り行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	田原町商店街、護国神社、幾久公園、博物館、図書館など本人の希望に沿った地域資源の活用に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人、家族が望む医療をうけられるよう支援している。体調不良時などはかかりつけ医に相談し、指示をもらい、適切な対応ができるように支援している。	希望するかかりつけ医受診を支援している。送迎時、家族に服薬等療養情報を確認し、特に状態が複雑、把握が困難な場合は、職員が同行している。情報の確実な把握と適切な受診支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の様子に変化や心配事があった時は、併設の訪問看護ステーションの看護師にアドバイスをもらうようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は必要な情報を提供し、入院中も面会時に地域連携室の担当者や看護師との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が進んでいるが、現在の介護保険のニーズに応えるべく、食事が摂れなくなり医療的な処置が必要になった段階前での家族への説明と同意を得ている。	重度化に伴い対応や意向について家族と話し合っている。出来るだけ事業所での介護ニーズに応えられるよう、職員間で意識を共有している。過去に看取りをした事例があり、管理者は看取りも含めて支援の在り方を検討している。	事業所として対応できる限界を明確にし、書面化して予め利用者家族職員間で共有したうえで支援することを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修等で、利用者の急変や事故発生時の応急手当や初期対応を学んでいる。また、急変時の記録を基に職員間で話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	それぞれの災害時のマニュアルを全職員が周知できる場所に置き非常時に備えている。火災に関しては消防立ち合いの元、夜間想定、日中想定での避難訓練を実施しており、地域の方にも参加してもらっている。	併設事業所と防災組織を編成し、職員は危機管理意識をもち通報手順等を共有している。地域との協力体制が整っており夜間避難訓練等において近所の方の参加立ち合いがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩に対する対応を心がけ、トイレ誘導では、他者に気づかれぬ声かけや誘導をおこなっている。	高齢者の尊厳意識を職員間で共有している。職員間で言葉づかい等互いに気づきをチェックし話し合いプライバシー確保の実践をしている。事業所内は指示語がなく和やかで一人ひとりゆったりと過ごしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が利用者の声に耳を傾ける事、待つ姿勢を心がけることなど、自己決定に必要な声かけや選択肢を提案することで、自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先しがちな時もあるが、職員が声をかけ合い、必ず朝の申し送り時に振り返りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に協力してもらいながら、本人の好みや、スタイルを保てるように一緒に洋服を買いに行ったり、美容室に同行したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備をしてもらったり、配膳、下膳は利用者にしてもらっている。また、職員と一緒に同じ食事を食べることで好みや食べ方などを観察している。	食前の嚥下体操には利用者全員が参加し、出来る範囲で発声等を行っている。食事はセトモノ食器と自分好みの湯飲みを使用している。家庭の延長という意識で職員も一緒に食事し、楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録し、不足がないか確認している。又、口腔内の状態を把握し、形態や量にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者それぞれの口腔状態を把握し、歯科衛生士の助言の基、歯ブラシの形態なども考慮して口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの排泄チェック表をつくり、パターンや習慣を職員は共有している。又、排便はなるべくトイレで出来るようにパターンや運動を取り入れてトイレでの排泄を促している。	トイレでの自立した排泄支援をしており、排泄パターンを職員間で共有し、トイレに誘導している。体調に合わせてパット、紙おむつ等補助的に使用することもある。プライバシーに配慮したさりげない排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日二回の具だくさんの味噌汁の提供や野菜がたくさん摂れるような献立を工夫している。また、散歩、体操など身体を動かす機会を提供できるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は一人ひとりのタイミングや体調などを考慮して週五回、午前中に実施している。本人の希望時間やその日の気分によって職員と話し合いながら決めている。	個浴で、入浴時間は希望に添えるよう調整し、入浴時には基本的に1人が付き添っている。身体状況により2人が介助することもある。体調や気分により入浴したくない場合は時間を変えるなど、無理強いのない支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者が好きな時に休みたい時に自由に居室で横になったり出来るようにしている。就寝時間は決めておらず休みたい時間に自分のペースで休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個人記録とともに綴り、全職員が目的・副作用、または変薬時には必ず副作用について日誌に記入し、症状の変化がないか留意して観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や活動状況を見ながら、楽しめるものを日々職員間で話し合いながら、その時に合った活動を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は利用者の希望に応じ外出の支援をしている。個別での外出のほうが多いものの全員での外出は家族の協力を得て一緒に出掛けている。	天気のよい日には、希望により近場を散歩し、車や人の往来を体感したり、近くの公園に出かけたりしてゆったり過ごしている。また、美容室、食事、買い物等馴染みの場所への外出支援をしている。事業所行事として家族も同伴し季節の名所に遠出することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ある程度の自己管理が出来る方には少額のお金を所持していただき、おやつや嗜好品などの買い物の支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は家族に電話ができるように支援している。年末は家族に年賀状を送る為職員と作成し元日に届くよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアのお花はきらさず飾り、フロアの壁には季節のタペストリーを飾ることで季節感を感じていただいている。屋上では野菜や花を育てており、心地よく過ごしてもらえるよう努めている。	キッチン、食堂兼多目的空間は食卓や椅子を配置し落ち着いた設えとなっている。南側と北側には大きな窓があり、採光が良い。また、居室、トイレ、浴室が機能的に配置されている。段差がなくバリアフリー構造で照明空調が完備してあり快適な空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア席の他にも和室やベンチなどでも過ごしていただけるように居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の馴染の物や家族の写真、自分で書いた絵など好きなものを持ち込み居心地よく過ごせるように工夫している。	居室は落ち着いた色調で統一され、大きな窓からの採光や照明、空調、換気がよい。また、馴染みの家具ベッドを持ち込んだり、自分好みの趣味の飾りつけ等をして、居心地の良い落ち着いた空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	インシデント報告書から利用者の出来る事、分かることを把握し、安全かつ自立した日常生活が送れるように職員間で話し合うように努めている。		